

2020年9月7日(月)、14日(月) 東洋大学ボランティアカフェ ONLINE

「わたしたちにできるSDGsアクション!」(SDGs編1,2)を開催しました

ボランティア支援室では、気楽な雰囲気の中でボランティア・社会貢献活動に関する話題に触れることのできる機会として「東洋大学ボランティアカフェ(以下、ボラカフェ)」を開催。新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンライン開催を行っています。

9月はSDGsをテーマに、東洋大学公認サークルTIPSの皆さんをリソースパーソンに迎え開催しました。

- ・日時：2020年9月7日(月)、14日(月) 14:00~16:00
- ・会場：オンライン会場
- ・リソースパーソン：東洋大学TIPSの皆さん
 - ・三浦央稀さん(TIPS代表、経済学部総合政策学科4年)
 - ・山本亜美さん(経済学部国際経済学科2年)
 - ・高橋由奈さん(国際学部国際地域学科1年)
 - ・山崎翼さん(情報連携学部情報連携学科1年)
- ・モデレーター(進行役)：日比野 勲(東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター)
- ・参加者：7日：13名、14日：16名

2016年から2030年の15年間に、国連加盟193カ国が達成すべき目標を掲げたSDGs(持続可能な開発目標)。前身ともいえるMDGs(ミレニアム開発目標)が、どちらかというといわゆる途上国が目指すべき目標を掲げていたのに対し、SDGsでは先進国として果たすべき責任が目標として示されたこともあり、市民・NGOセクターのみならず、企業・行政セクターの間でも関心事となっています。

社会課題にアプローチする学生ボランティア団体においても、SDGsは親和性の高いテーマであり、ボランティア活動に関心のある本学学生の間でもSDGsへ一定の関心が向けられていますが、一方で具体的にどのようにSDGs達成に向けたアクションに取り組めば良いかわからないという声も聞かれます。今回のボラカフェは、東洋大学でSDGs達成に向けたプロジェクトを展開しているTIPSを迎え、SDGsに向けた具体的なアクションへの関わり方のヒントを学ぶことを目的に開催しました。

7日に開催した第1回では、参加者に予めSDGsにちなんだ(と自分で考える)写真を1枚用意いただき、それをビデオ会議システムのバーチャル背景または画面共有の機能を使って紹介するというアクティビティを実施しました。ある人は「質の高い教育」のイメージとして、ある人は自身の留学先の写真を示しながら、SDGsを語る人の中に社会課題の当事者がいなかったことを問題提起し、またある人は自身の故郷の写真を紹介しながら、グローバル化の渦中ローカルな視点を持ちながら、すみつづけられるまちづくりに貢献したいという目標を語るなど、参加者の数だけ多様なSDGsの視点があるのだということを実感できるアクティビティとなりました。

14日に開催した第2回では、TIPSの皆さんにその取り組みを紹介していただきながら、ブラウザ&スマートフォンアプリ「Kahoot!」を活用したSDGsクイズを実施しました。

TIPSは、SDGsとダイバーシティ(多様性)を軸に活動を行っていますが、何よりも大切にしているこ

とは、活動を通じての学生の成長です。SDGs とダイバーシティを軸に据えた意味での「よりよい社会」の実現を目指すために、ものごとの本質を見つめ、先入観や偏見にとらわれず、自分たちで知り、考え、行動することのできる「担い手」となれるべく成長できる場をつくることを目指しています。そのことは、東洋大学の考える「哲学する」こと*1にも相通じるものであるといえます。

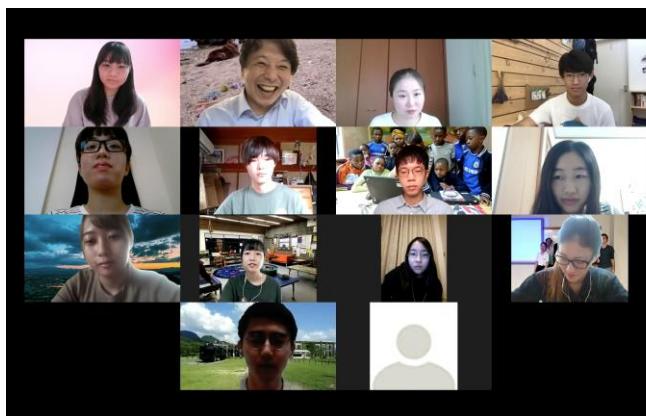
TIPS のウェブサイト*2 では、TIPS の SDGs に関する取り組みや、白山キャンパスをサステイナブル（持続可能）なキャンパスにしていくためのビジョンが示されており、この日のボラカフェでも紹介されました。

キャンパスライフを送る中で気がついたなげない疑問。その疑問を本質的に考え、向き合い行動する中で、気がつく SDGs アクションになっている。わたしたちにできる SDGs アクションとは、そのために何かしようと思って行動することよりも、もっと身近なところにヒントがあるのかも知れません。

*1：「哲学する」こととは、「先入観や偏見にとらわれず物事の本質に迫って、自らの問題として深く考えることととらえ、その営みの中で深く社会の課題に取り組む」ことであるとしています。（引用元：『「哲学する」姿勢が世界を生き抜く力になる』竹村牧男談、東洋経済企画広告制作チーム制作、東洋経済オンライン、2016）

*2：<https://toyotips.themedia.jp/>

上記ウェブサイトにおいて、今回のボラカフェにリソースパーソンとして参画したことのレポートが掲載されています。



(ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲)